

クラウドカメラ入門書

～映像の取り扱い～



私たちセーフイーは、映像データの適切な利用を通じて社会課題の解決を目指しています。安心・安全な社会作りに向けて、ステークホルダーと考え方を共有し、協力してデータガバナンスを実現すべく、クラウドカメラにおける映像の取り扱いについて整理しました。

映像の不適切な 取り扱い =信頼を失うリスク!? 罰金!?



不適切な個人情報の取扱いを行っている場合には、個人情報保護委員会から指導・助言、または勧告・命令が行われます。

個人情報保護委員会の命令にも違反した場合、違反行為をした個人には1年以下の懲役又は100万円以下の罰金が科され、法人には1億円以下の罰金が科されます。

またそれだけでなく、「プライバシーを尊重しない企業」として世間から批判を受けるリスクがあります。

POINT まとめ

- ・人が映り込む映像=個人情報である
- ・事前に撮影していることや、目的を伝えることで生活者への配慮を欠かさない

クラウドカメラの映像 =個人情報!?



人が写り込む映像は個人情報となり、取り扱いにあたり個人情報保護法が適用されるため、特に人が写り込んでいる映像の取り扱いには注意が必要です。

どうして配慮が必要なのか?

カメラは、その見た目だけでは何を撮影しているかわかりません。その結果、自分の姿や行動が勝手に撮影されている?見られている?に使われるんだろう?と不安を感じさせてしまう可能性があります!

映像活用における
3つのNG

目的が不明確な形で、
カメラ画像の取得や
利用をすること

生活者の
同意を得ずに、
長期 & 広範囲に
追跡すること

目的に必要なない
撮影範囲、
撮影期間で
データ取得や
保管をすること

カメラ設置で信頼を失うリスク発生!?



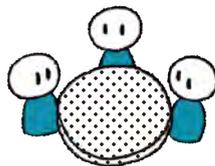
カメラの設置の際に使える チェックリスト

使用目的に応じて、主に3つの情報を生活者に伝えていきましょう。

- ① なぜカメラを置いているのか、撮影した映像をどのように使うのか
 - ② カメラが何をどこまで撮っているのか
 - ③ 撮影した映像をどのように扱うのか（例えば、誰がその映像を見ることができるとかなど）
- webでより詳細な事例を発信しています



防犯以外の 利用目的を含む場合



- 映像が人が写り込むかを確認した
- 運用時のルールを整備した
- 問い合わせ窓口を設置した



防犯目的の場合

- 利用目的を決定した
- カメラ設置の正当性を確認した



- 生活者に対する
事前告知を実施した
- 防犯カメラステッカーを
貼り付けた



- 生活者に対する
事前告知を実施した
- 店舗等に掲示物を設置した

- データアクセスを限定している
- 問い合わせ対応をしている

企画
利用目的決定

設計
運用体制構築

運用
通知・公表

管理
安全管理対策



セーフリーの目指す未来について

私たちセーフリーは「映像から未来をつくる」というビジョンのもと、映像データの利活用を通じた社会課題の解決、安心・安全な社会作りに貢献したいと考えています。

そのため私たちは、企業活動におけるどのような場面においても、すべての人の基本的人権を尊重します。

私たちの目指す安心・安全な社会づくりには、映像データの適切な利用が必要不可欠です。もし不適切な利用があれば、個人のプライバシーへの影響はもとより、監視社会への懸念、差別や偏見の助長、ひいては民主主義などの私たちの社会の根幹を成す価値観への脅威にも繋がりがねません。私たちはそのような不適切な利用には明確に反対します。

以上の認識のもと、映像プラットフォームの利用時に必要な配慮事項を整理しました。私たちはプラットフォームを利用されるお客様やパートナー等のステークホルダーと考え方を共有し、協力してデータガバナンスの実現を目指します。

セーフリーの
取組はこちら

